

北海道医歌人会詠草

アザラシ

札幌 小国 孝徳

爺むさくなりたる頭にアザラシを載せて雪像の間を歩む

初めての夜を過ごししホテルにて夫々の料理を半分づつ食ふ

いち早く前倒姿勢を保ちつつ男性選手の距離を越へたり

股開くことなくスキーを平行に揃へて飛びき今に恋ほしむ

エベレストに登りし後輩の三浦君生体反応はどうなってる

亡友追悼

札幌 古屋 統

昭和史に自己史を重ね書留めし齋藤昌淳逢ふ間なく死す

自らは書くこと無くてわが書けば読み砕きたる佐伯義人は

席近き玉田睦生と高橋順論駁色をなして譲らず

十津川の郷士の流れ武に長けし玉田は妻を追ふ如く去る

順逝きて妻女艱苦のメイプルに手を藉すなくて冷たきか吾は

ノロウイルス禍

美唄 吉村 誠治

二千七年無事に終へむと願ひしも我が老健に「ノロ」発生す

二日間の点滴と禁食指示したりこれで終らむ願ひを込めて

一睡も出来ずと看護師朝に言ふ「ノロ」の発生二名増へをり

夫々の居室に戻り穏やかな顔になりて我をねぎらふ

長かりし三週間を乗り切りて「ノロ」終息に雪雲見上ぐ

落差千（メートル）

札幌 山口 康徳

月面ゆ昇る地球をわれ観れば地球亦星ぞと正に実感

国会に火花散るがの波乱あり睡魔吹つとび脳に活呼ぶ

先人の予言はまさに適中るなり真砂尽くとも偽証尽きじと

落差一〇〇〇強力なれど途中にて水流は散り滝壺も消ゆ

毀誉褒貶を意識せぬがに装ひて策を進めるトップは強し